

平成 23 年度

教育委員会の事務に関する点検評価報告書

平成 24 年 9 月

鳩山町教育委員会

## 目 次

- 1 はじめに
- 2 点検評価の対象及び方法
- 3 鳩山町教育振興基本計画の策定
- 4 鳩山町教育行政の重点施策
- 5 重点施策に基づき取り組んだ主な事業と評価
  - (1) 創造性と社会性を育む幼稚園・学校教育の推進
  - (2) 健やかな心と体（感動・優しさ・努力・体力）を育む健康教育の推進
  - (3) 家庭・地域の教育力（愛情・安心・信頼・真心・躰）の向上
  - (4) 生涯学習（文化的活動）とスポーツの振興
- 6 おわりに

## 1 はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）の一部改正（平成20年4月1日施行）により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなりました。

この報告書は、鳩山町教育委員会が同法の規定に基づき、毎年度教育行政の基本方針として定めている鳩山町教育行政重点施策に関し、平成23年度に重点的に取り組んだ事業について、点検及び評価を実施した結果をとりまとめたものです。

## 2 点検評価の対象及び方法

鳩山町では、毎年度「教育行政重点施策及び努力点」を定めております。この重点施策は、教育委員会がその年度に重点的に取り組むべき施策として定めており、これに基づき、教育委員会が自ら点検評価を実施するものです。

また、法第27条第2項の規定に基づく、有識者の活用については、学識経験者3名から意見をいただきました。

氏名	経歴
仁平 三奈子	元学童保育おしゃもじ山クラブ会長
橋詰 玲子	元鳩山小学校 PTA 会長
松本 正夫	元今宿小学校 PTA 会長

## 3 鳩山町教育振興基本計画の策定

平成18年12月に教育基本法が改正され、新しい時代の教育の基本理念が示され、同法の中で、「地方公共団体は、その地域における教育の振興を図るため、その実情に応じた教育に関する施策を策定し、実施しなければならない」とし、また、「国や埼玉県が定める計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努力しなければならない」ことが新たに規定されました。鳩山町教育委員会では、平成23年度に公募委員を含む「鳩山町教育振興基本計画検討委員会」で検討いただきながら、今後の10年間を見据えた鳩山町の教育の姿「基本方針」を示すとともに、今後5年間に実施すべき教育施策や事業を具体的に示すものとして「鳩山町教育振興基本計画」を策定しました。

## 4 鳩山町教育行政の重点施策

### 【基本理念】

『意欲を育み 心をつなぐ』

鳩山の子ども発信や子どもたちの実態を踏まえ、未来に希望を持ち、心豊かに、力強く生きていく鳩山の子を育てるために「意欲を育み 心をつなぐ」を基本理念とする。

- 1 意欲を育むために  
愛情（人間愛）を基本に、学び合い・触れ合い・認め合い・励まし合い、心安らぐ居場所を作り、家庭・学校・地域で、意欲を育む。
- 2 心をつなぐために  
一緒に行動（協働）することを基本に、ともに信じ、喜び、絆を深めながら愛情を持って見守ることで、心をつなぐ。
- 3 意欲と心をつなぐために  
言葉の力で「意欲を育み、心を拓く」前向きな声掛けをする。特に、「おはよう、ありがとう、ごめんなさい、どうぞ、どういたしまして」の言葉を大切に指導する。

#### 【重点施策・努力点】

- (1) 創造性と社会性を育む幼稚園・学校教育の推進
  - ① 創意を生かした特色ある幼稚園・学校づくりの推進
  - ② 鳩山町学力向上・指導方法改善プランの推進
  - ③ 環境教育実践プランの推進
- (2) 健やかな心と体（感動・優しさ・努力・体力）を育む健康教育の推進
  - ① 鳩山町体力向上プランの推進
  - ② 鳩山町食育教育推進プランの推進
  - ③ 読書・多様な遊び実践プラン
  - ④ 人権を尊重する教育の推進
  - ⑤ 特別支援教育・心を育てる生徒指導の充実
- (3) 家庭・地域の教育力（愛情・安心・信頼・真心・躰）の向上
  - ① 学校応援団の充実プラン
  - ② 親学講座実施プラン
  - ③ 私の家族・役割充実プラン（一人一役運動）
- (4) 生涯学習（文化的活動）とスポーツの振興
  - ① 多世代活動交流センター活用プラン
  - ② 鳩山中学校ミュージアムの創造・活用プラン（郷土学習センター構想）
  - ③ スポーツ行事の活性化、施設の活用・充実プラン
  - ④ 一人1スポーツ実践プラン

## 5 重点施策に基づき取り組んだ主な事業と評価

### (1) 創造性と社会性を育む幼稚園・学校教育の推進

#### ①創意を生かした特色ある幼稚園・学校づくりの推進

鳩山町の公立幼稚園、各小中学校ではそれぞれに研究課題を設定して、研究を行い、特色ある教育活動を展開しました。教育委員会は適宜サポートする体制で関わっています。

平成23年度の公立幼稚園・各小中学校の研究課題は以下のとおりです。

鳩山幼稚園 「わくわく タッチで パワー全開」

…幼児が喜んで体を動かして遊ぶようになる為には…

亀井小学校 「学び合いを通し、相互に学力を向上する児童の育成」

…算数科の学習を通して…

今宿小学校 「算数科における問題解決学習の指導と展開の工夫」

…基礎基本の徹底と活用力の向上をめざして…

鳩山小学校 「意欲をはぐくみ心をつなぐ教育の実践」

…幼稚園・保育園との連携と交流をとおして…

鳩山中学校 「主体的に学び、考え、活動する生徒の育成をめざして」

…共に学び、個を生かす指導形態と評価の工夫…

#### ②鳩山町学力向上・指導方法改善プランの推進

「教育に関する3つの達成目標」を幼稚園、各小中学校の重点目標として位置づけ、自校（園）の子どもたちの実態把握から課題設定を行い、取り組みました。特に、基礎的・基本的内容に係わる部分では、各学校の年間指導計画上に明示して教職員が重点課題として学力向上に取り組みました。

教育委員会では幼稚園と各小学校に町費任用の学習支援講師と特別支援教育支援員を6名ずつ、各小学校に英語指導助手2名を配置するなど人的措置を講じてバックアップを行っています。

また、中学校ではすべての学年において「35人学級」を実現するために町費による少人数学級支援講師（4名）を配置し、きめ細やかな学習指導・生活指導ができる環境づくりを進めました。

各小中学校はこれら講師を活用し、指導法の工夫改善に取り組みました。小学校においては埼玉県学力・学習状況調査では、学校毎の結果に開きが見られ、効果をあげている学校の取組を広める必要が出てきました。また、中学校でも年度による結果の差が大きく、小中ともに生きる力を育むための基礎的・基本的な学習内容の定着化が課題となりました。そのため、平成21年度から立ち上げた「鳩山町学力向上推進委員会」では、よりよい指導についての共有化や、家庭学習の習慣化のための学力向上リーフレット『「確かな学力」を育む家庭

でできる3つのポイント』を作成し、昨年に引き続き配付しました。平成23年度は、『教育に関する3つの達成目標』の「計算」に的を絞り、鳩山町学力向上推進委員会で計算プリントを作成し、全校で取り組み、小学校においては埼玉県目標達成率95%を全ての学年で超えることができました。

### ③環境教育実践プランの推進

鳩山町立各小中学校すべてに太陽光発電設備の設置が終わり、これを活用した授業計画を平成22年度に作成し、全小・中学校で取り組む体制を作りました。そして、平成23年度は、この授業計画にそって環境教育に取り組みました。

また、平成21年度に電子黒板等のICT機器の各学校への整備が図られ、引き続きこれらの機器をいかに活用し、教育効果を高めていくかが課題となっています。そのために、今後ともさまざまな教員の研修の機会を増やしていかなければならないと考えています。

学習環境の整備・充実としては、各学校施設の改修工事のほか、国の補助金を有効的に活用し、屋外環境（グラウンド）事業として鳩山中学校の第一グラウンド改修整備工事を行うことができました。

学校名	主な学校施設改修工事
亀井小学校	トイレ便器交換工事
今宿小学校	四連ブランコ新設工事 校舎パイプシャフト区画工事
鳩山小学校	防球ネット改修工事
鳩山中学校	第一グラウンド改修整備工事 放送設備改修工事

また、平成23年度に緊急雇用創出基金事業補助金を活用し、学校図書館図書整理員2名を各小中学校に配置し、学校図書の整理や貸出業務の補助等で成果をあげることができました。

### 【評価】

① 教育は人なり、教職員の資質の向上を図ること、日常の授業をいかに充実させることができるかに教育の成果は左右されます。幼稚園、各学校においてはそれぞれの学校課題を設定し、年間で一人一回は授業を見せ合い、研修の機会を設けてきました。また、各種の研修会での成果を、各学校において広めることを通して教職員の資質の向上に取り組んできました。教育委員会としても、可能な限り参加して引き続き指導をしていくことに努めていきま

す。また、平成21年度から立ち上げた「鳩山町学力向上推進委員会」では、9年間を見通した児童・生徒の育成を行うため、学校でできること、家庭にお願いすること等について今後も検討を重ね、児童・生徒の学力向上に努めてまいります。また、平成21年度から小中連携を進めるための合同研修会を開き、情報連携を中心に連携しています。

平成23年度は県の研究委嘱を受け、鳩山小学校を中心とした幼・保・小連携推進事業に取り組み、幼・保から小への接続時における課題を減らす研究を進めてまいりました。今後は、それぞれの園・学校での情報交換や授業公開の取組の一層の充実を図るとともに、継続的に取り組むことができるようにしていきます。

- ② 「きめこまやかな学習支援事業」、「鳩山中学校35人学級支援事業」においては、比企郡内の市町の中でも最も充実した人的配置を行っています。さまざまな課題を抱えた子どもたちが増加する中で、現場の学校からは「何よりありがたい」という声が届いており、引き続き予算の許す範囲で、この事業を継続し、学校へのサポートを行っていきたいと考えています。

「早寝・早起き・朝ごはん」は、学習に臨む基礎基本とも言える家庭環境です。機会ある毎に家庭に周知し、引き続き保護者の意識を高めていく必要があります。家庭への啓発資料を配付し、平成24年度も引き続き取り組んでまいります。今後は各種関係機関との連携も視野に入れながら健やかな心と体を持つ子どもの育成に努めていくことが重要と考えています。

- ③ 太陽光発電設備の設置が22年度すべての小中学校で完了しましたことにより自然エネルギーについての環境教育に役立てていくとともに節電への取り組みも行っていました。それに伴い、太陽光発電を題材として取り入れた年間指導計画を作成し、並行して授業実践も行いました。

学校施設の整備としては、鳩山中学校の第一グラウンドの水はけが悪く野球部及びソフト部の部活動に支障をきたしていたことから、真砂土及び黒土を入れグラウンドの水勾配を取り、排水溝を設置することで水はけを良くし学校施設の環境整備ができました。

## (2) 健やかな心と体（感動・優しさ・努力・体力）を育む健康教育の推進

### ①鳩山町体力向上プランの推進

全校で「早寝・早起き・朝ごはん」を合い言葉に、朝食欠食児童の減少に取り組みました。さらに、学校保健委員会等に外部講師を招き「健康教育」についての教職員・保護者対象の講習会を開催したり、歯科衛生士を招いた児童対象の歯科授業を展開したりする等、健康教育の充実を目指した取り組みを行

いました。

また、幼稚園、各小中学校においては外遊びの奨励や、業前・業間活動を意図的・計画的に行い運動習慣の確立に努めました。さらに、小中学校では体育授業時に基礎体力を身につけるために県教委が推奨している「すくすく・ステップアッププログラム」を取り入れた授業を行っています。

各学校では自校の児童・生徒の課題から運動時間を確保するとともに、新体力テストの目標値を示し、体力向上に向け日常の体育授業の指導法を工夫・改善して取り組みました。

## ②鳩山町食育教育推進プランの推進

学校給食センターでは、全学校で「早寝・早起き・朝ごはん」を合い言葉に、朝食欠食児童の減少に取り組みました。また、地域の農産物を給食に取り入れ、食材について理解することにより郷土の文化を知らせた。食への関心を高めるため、給食集会でエプロンシアターを行い、食への正しい情報を伝えた。

## ③読書・多様な遊び実践プラン

図書館では、小学生・中学生に対して毎月「こども図書館だより」、「中学生図書館だより」を発行して、行事案内や図書の読書案内を行い、図書館を利用して多くの本を読んでいただくようPRしました。

また、一般利用者の方につきましては、毎月の広報において、司書が選ぶ本を掲載して、多くの本を読んでいただくようPRしました。また、乳幼児から小学生が本に親しむために次の事業を実施しました。

### ア すこやかブック事業

図書館では、乳幼児から本に親しんでいただくために、保健センターで実施している「乳児検診」の合間を利用させていただき、ボランティアの方と一緒にあかちゃんに絵本の読み聞かせを行いました。

年6回54名に実施させていただきました。また、それと同時にお母さんに対して、あかちゃんの絵本リストなどを配布して絵本を紹介するとともに、図書館で実施している事業（うさぎちゃんのへや）のPRも行いました。

### イ うさぎちゃんのへや

毎月第2・第4金曜日の午後1時30分から多世代活動交流センターつどいの広場（ぽっぽ）において、未就学児対象の絵本を使ったおはなしと手あそびを実施しました。

年21回延べ257名の方が参加されました。

### ウ こどもおはなし会

毎月第1・第3土曜日の午前10時30分から小学生までを対象に、本

を使ったおはなしと、紙工作を行いました。

年21回延べ58名の方が参加されました。

#### ④人権を尊重する教育の推進

さまざまな人権問題を解決するため人権教育を系統的、計画的に推進し、人権に関する学習機会の充実を図ることとしました。

「基本的人権を尊重する教育の推進」では、女性、子ども、高齢者等さまざまな人権問題の解決を図るため、人権教育・人権啓発事業に取り組んできました。

主な人権教育推進事業では、小学生を対象とした「のびのび鳩山」（1～3年生）を6回、「子どもおもしろ科学館」（4～6年生）を5回実施しました。

「のびのび鳩山」の第2回・第6回学習会、「子どもおもしろ科学館」の第5回学習会では、それぞれ中央公民館主催の「わんぱく学級」（対象3～6年生）と合同で開催し、学習の環が広がりました。

「のびのび鳩山」や「子どもおもしろ科学館」では、児童が相互に協力し、町内の散策やものづくり、実験や観察を通して豊かな心や思いやりの心を醸成するための体験学習の場を提供しました。

「いろいろなものを作って遊び、楽しかった。友だちも増えた。また来年も参加したい。」「町を歩き、いろいろなことを知ってうれしい。」「いろいろな実験や観察で新しいことを学べてよかった。また参加したい。」「空気や熱、電気の性質を学び、これからも観察や実験をしたい。」などの感想がありました。

ア のびのび鳩山

(単位：人)

回	期 日	時 間	内 容	会 場	参加者数
1	5/28 (土)	9:00～11:30	動くおもちゃを作ろう	中央公民館	35
2	7/ 2 (土)	9:00～11:30	七夕かざりを作ろう	中央公民館	31
3	9/ 3 (土)	9:00～11:30	ウグイス笛やストロー笛を作ろう	中央公民館	34
4	10/ 1 (土)	9:00～11:30	泉井地区を散策しよう	泉井地内	10
5	12/10 (土)	9:00～11:30	色づいた葉を描こう	中央公民館	23
6	1/21 (土)	9:00～11:30	もちつき大会	農村公園	34

イ 子どもおもしろ科学館

(単位：人)

回	期 日	時 間	内 容	会 場	参加者数
1	6/25 (土)	9:00～11:30	ミクロの世界	石坂集会所	22
2	7/ 9 (土)	9:00～11:30	教訓茶碗を作る	石坂集会所	22
3	8/10 (水)	9:00～15:00	プラネタリウムの見学	北本市文化センター	21
4	9/10 (土)	9:00～11:30	紙コップロケットを飛ばす	石坂集会所	24
5	11/26 (土)	9:00～11:30	空き牛乳パックのパン焼き器	石坂集会所	36

男女共同参画社会の実現を目指し、「<sup>ひと</sup>女と<sup>ひと</sup>男の生き方学級」を開催しました。

受講生の中から運営委員を募り、運営委員会で協議を重ね事業計画や年間テーマを定め、学級では運営委員が受付・司会・記録など役割分担して実施しました。

年間テーマを「暮らしと道」～鎌倉街道を歩き、当時の人々の生活を知る～と定め、地域の歴史学習を通して一人ひとりの基本的人権を尊重し、心の醸成に重点を置いて学習を重ねてきました。

また、自他を大切にしながら受講生が相互に協力し、さまざまな人権問題を正しく理解して一人ひとり課の人権意識を高め、偏見や差別を解消するため、学習活動に取り組みました。

#### ア 女と男の生き方学級

(単位:人)

回	期 日	時 間	内 容	会 場	参加者数
1	5/30(月)	9:30~12:00	赤沼古代瓦窯跡・文化財展示室の見学	赤沼地内ほか	24
2	7/25(月)	9:30~12:00	鎌倉街道について	石坂集会所	22
3	9/27(火)	8:30~17:00	武蔵国分寺跡資料館等の見学	東京都国分寺市	20
4	11/21(月)	9:30~12:00	鳩山町内の鎌倉街道を歩く	今宿・赤沼地内	27
5	2/27(月)	9:30~12:00	スライドで見る早春の植物	石坂集会所	15

研修会等では、教職員を対象とした「人権問題研修会」を、また、町民を対象とした「人権問題を考える町民の集い」をそれぞれ1回開催しました。

「人権問題研修会」では、児童生徒の発達段階に応じた人権教育を推進するため、「人権教育の現状と課題」講演を教職員は熱心に学習し、充実した研修会になりました。

また、「人権問題を考える町民の集い」では、人権が尊重された社会づくりに向けて町民意識の高揚を図るため、鳩山中学校吹奏楽部の演奏によるオープニング、小・中学生の代表による人権作文の朗読発表、最後に「笑いと明るさで心にゆとりを」と題して講演がありました。

成果としては、人権教育推進事業や研修会等の開催により、さまざまな人権課題について町民一人ひとりがその現状を正しく理解する学習機会に参加され、自分自身の問題として自他を大切にすることを醸成することができたのではないかと考えております。

今後もさまざまな人権課題の解決に向け、一人ひとりの人権意識の高揚を図るため人権教育・人権啓発に努めていきたいと考えております。

人権問題研修会等実施状況

(単位：人)

期 日	時 間	内 容	会 場	参加者数
8/17(水)	13:30~15:30	鳩山町人権問題研修会 人権啓発映画上映「クリームパン」 講演：演題「人権教育の現状と課題」 講師：東松山市立松山中学校長 島野隆司氏	鳩山町役場	79
12/3(土)	9:30~12:00	鳩山町人権問題を考える町民の集い オープニング 鳩山中学校吹奏楽部の演奏 人権作文発表(小・中学生代表4名) 講演：演題「笑いと明るさで心にゆとりを」 講師：辻 イト子氏(漫才師)	鳩山町文化会館	347

⑤特別支援教育・心を育てる生徒指導の充実

就学支援委員会では、平成20年度には私立保育園を、平成21年度には県立特別支援学校、町の保健センター職員等をメンバーに加え、より良い就学相談体制を構築しました。平成22年度からは私立幼稚園もメンバーとして加え、町の全幼児教育施設をメンバーとした就学支援体制の充実を目指しました。これにより町立小学校に入学する町内の幼稚園・保育園の子どもについては全員が就学支援委員会での話し合いの対象となりました。また、埼玉県立毛呂山特別支援学校のセンター的機能(県の施策)を活用し、情報連携とともに教員研修等でも連携を深めることができました。今後も引き続き連携を深めてまいります。

児童・生徒の問題行動に適切に対処するには、その知識や技能を持った教職員の育成が欠かせません。各種のカウンセリング研修会への参加の奨励や相談員との連携によって、様々な課題を抱えた子どもや保護者への対応を行う体制を整備・充実させていく必要があります。鳩山中学校に設置の「さわやか相談室」と各小学校との連携を強化し、積極的な生徒指導・教育相談体制を広めていきます。また、生徒指導面での小中連携を充実させるため、平成20年度から立ち上げた生徒指導主任の連携会議を引き続き開催しました。21年度からは小学校3校で共通した「学習のきまり」を活用し、中学校への接続をスムーズにする取り組みを始めました。平成23年度からは中学校でも同様な「学習の約束」を使用して小・中の連携を図りました。また、授業規律についても同様に連携して取り組みました。

また、各学校では積極的な生徒指導を行い問題行動を起こさせない指導を目指しています。

各学校では児童生徒との個別面談や教育相談、アンケートなどを実施し一人ひとりを大切にする生徒指導に取り組んでいます。

不登校傾向のある児童・生徒が前年より若干増加傾向にあるため、この点を重点として平成24年度は取り組む必要があると考えます。不登校には含まれませんが、家庭での意図的な就学拒否等の児童もおり、学校だけでなく、福祉部門との連携も重要になると考えています。

#### 【評価】

- ① 鳩山町の児童生徒の体力向上は、学力向上とともに大きな課題になっていましたが、平成23年度の新体力テストでは、中学校は埼玉県でもトップクラスの結果を収め、小中合わせた埼玉県の市町村別の結果でも上位になりました。しかし、小学校の特に男子の結果に課題が見られました。経年比較では、平成23年度も体力の向上が見られていますが、新体力テストの県平均と比較すると、まだまだ種目によっては課題が見られます。平成23年度は、握力とボール投げを課題と捉え、各学校の体育授業の準備運動に握力の補強運動を取り入れたり、ボール投げをできる環境整備を行ってきました。体力向上推進委員会では、これら各学校の取り組みを情報交換することで効果的な取り組みを町全体へ広げることができました。平成23年度は、体力向上推進委員会とは別に、実務的な体育主任会を開催し、小学校3校で体力向上に向けた共通した取り組みができるようにしていくことができました。
- ② 「早寝・早起き・朝ごはん」は、学習に臨む基礎基本とも言える家庭環境です。機会ある毎に家庭に周知し、引き続き保護者の意識を高め、欠食児童生徒を減らしていく必要があります。
- ③ 読書に関しては、小中学校の先生方を通じ児童・生徒には毎月、「図書館だより」の配布を行いました。

結果的には、毎月図書館行事並びに図書紹介などをPRしてきましたが、なかなか小中学校並びに高校生の年齢層については、利用者数が伸びません。

今後、学校図書館と町立図書館との利用効率を高めるために、小中学校の図書担当の先生方と連絡調整を図っていく必要があると感じております。

よって、連携を取るべく努力していきたいと考えております。

さらに事業としては、あかちゃんの時から本に親しみを持ってもらい、よりに読み聞かせ等を実施しておりますが、今後、お母さん、お父さんも参加できて、本の大切さを理解していただくような企画を考えていければと思っております。
- ④ 今日、私たちの身の回りには女性・子ども・高齢者・障害者・外国人・同和問題などさまざまな人権問題があります。こうした問題を解決していくた

めには、一人ひとりが個々の問題を正しく認識し、お互いに相手を思いやり、偏見や差別を解消しようとする心を養うとともに、行動していくことが大切です。

教育委員会としては、児童生徒一人ひとりの発達段階に合わせた学校教育における人権教育の実践や社会教育分野における人権教育を関係機関や団体などと協力連携し、計画的に諸事業を推進しています。

その結果、学校における人権教育の成果として教職員などの指導により、児童生徒が相互に協力し他人を思いやる気持ちを身につけ、行動できるようになったことについては評価できますが、いじめやそれに類似した行動が皆無とは言えないと思われるため、各学校での人権教育推進組織や教育相談体制の充実・強化に努めるとともに、学校・家庭・地域などが連携して一人ひとりの児童生徒の状況を踏まえ、早期に対応し解決する必要があります。

社会教育分野における人権教育の取り組みについては、人権教育推進事業（「のびのび鳩山」、「子どもおもしろ科学館」、「女と男の生き方学級」）を通して参加者の人権意識が徐々に高まってきていると思われ、評価できますが、参加者は町民の一部であるため、今後もより多くの人々に学習への参加を呼びかけ、さまざまな人権課題の解決に努めていく必要があります。

また、研修会への参加についても団体や組織などに所属する一部の町民に限られるため、今後も広報活動に努め、人権教育・人権啓発の効果的な方策について見直し、粘り強く継続して取り組んでいくことが大切であると思われま

す。石坂集会所については、人権教育・人権啓発を推進するための拠点施設であると同時に、日頃から地域住民の集会施設として、また、町民の文化活動や相互交流のための施設として住民が利用されており、一定の評価はできると思われま

- ⑤ 教育委員会では、年間4回の就学支援委員会を開催し、園児、児童・生徒一人ひとりに合った就学先をアドバイスできる体制のもと、就学について支援を行っています。

また、幼稚園、小中学校においては、町費対応で特別支援教育支援員を配置し、個別の指導の充実を図るための教育支援を行っています。町内の3つの学校にある特別支援学級においては、児童・生徒一人ひとりの教育ニーズに合った「個別の教育支援計画」を作成し、個に応じた支援を行う体制を整備しました。

さらに、特別支援学級の担当教諭には積極的に県の研修の受講を勧め、特

別支援教育についての専門性の向上を図りました。平成22年度からは埼玉県立毛呂山特別支援学校との連携を深め、指導者の派遣等で協力を得る体制を作りました。

### (3) 家庭・地域の教育力（愛情・安心・信頼・真心・躰）の向上

#### ①学校応援団の充実プラン

家庭・地域社会との連携を図るために、PTA活動を拡大する形で21年度に全校で学校応援団が設置されました。平成22年度から年に2回の学校応援団コーディネーター会議を教育委員会が主催し、コーディネーターの横の情報連携を図る体制をつくりました。

#### ②親学講座実施プラン

今日、少子高齢化・国際化・高度情報化など子どもたちを取り巻く社会環境が急変しています。このような状況を踏まえ、「親や地域で子どものよさを更に伸ばそう 子育ての町鳩山を創ろう」をテーマに、幼児・児童・生徒を持つ保護者をはじめ町民を対象に子どもたちの健やかな成長を願い、小・中学校PTAを中心に町内の諸団体などで組織する「鳩山町親学講座実行委員会」が平成22年度に発足しました。

毎年実行委員会が主体的に企画・運営し、家庭・学校・地域・職場が相互に連携し、町民一人ひとりが子育てについて関心や意識を高め、地域を挙げて子育てに取り組む町鳩山の実現のため、親学講座を開設しました。

#### 親学講座講演会の実施状況

日時	会場	講師	演題	主催	参加者
10/22(土) 14:00 ～16:00	鳩山町 文化会 館	明治大学教授 齋藤 孝氏	「人間関係をつくる コミュニケーション 力 ～子どもの心と 体を育てる～」	鳩山町親学 講座実行委 員会	330人

次に、家庭の教育力の向上を図るため、小・中学校や町立幼稚園とその保護者の協力により「親の学習講座」事業にも取り組みました。就学時健康診断や中学校入学予定者保護者説明会、中学校の家庭科の授業における中学生と乳幼児とのふれあい体験学習などを実施しました。指導者は「親の学習講座」事業指導者養成講座の修了者や埼玉県家庭教育アドバイザーに依頼し、事前の打合せ会などにより協議して、執務の割り振りを行いました。

特に、乳幼児と鳩山中学校生徒とのふれあい授業は、家庭科での「育児や幼

児との接し方」の単元に基づく体験学習で、日頃乳幼児とふれあう機会の少ない中学生が、赤ちゃんのかわいさや命の大切さ、親への感謝の気持ちを育むことを目的に、平成19年度から社会教育委員が中心となって中学校、幼稚園、乳幼児を持つ保護者、埼玉県家庭教育アドバイザーなど多数の方々のご協力により充実した事業が継続しています。

これらの事業の成果としては、町民相互の交流を図り、各種活動への理解やふるさとを見つめる心を涵養することができ、また、親子のコミュニケーションの大切さ、家庭教育の重要性などについて改めて考える機会を提供できたものと認識しております。こうした生涯学習事業の取り組みが町の活性化に寄与できたものと考えています。

#### 親の学習講座事業の実施状況

位置づけ	時期	会場	回数	テーマ	参加者	指導者
就学時健診	10月	各小学校	3回	元気に学校生活を送る	88人	3人
家庭科授業	7～10月	鳩山幼稚園	4回	乳幼児と生徒のふれあい	106人	48人
新入学説明会	2月	鳩山中学校	1回	思春期の心	95人	1人
合計			8回		289人	52人

また、町民の皆様に郷土「はとやま」をより一層理解していただくため、地域にまつわる民話を披露し、童謡を歌う。小・中学生からふるさとに関する作文を広く募集し、その一部の作品を朗読発表する。これらの活動を通して青少年の健全育成に努め、明るいまちづくりを推進することを目的に、「ふるさとの民話・童謡まつり」を開催しました。この催しでは、社会教育委員の皆さんが当日の運営（受付・会場・進行の各係）を行い、小・中学生を含めた出演団体（7団体）が童謡等を披露し、また、小・中学生の代表によるふるさと作文の朗読発表を行いました。参観者は230名でした。

#### 事業実施状況

日時	事業名	会場	参加者数
11/3 (木) 13:30～15:30	ふるさとの民話・童謡まつり	鳩山町文化会館	出演者 7団体（個人） 作文朗読者 小・中学生 10人 参観者 230人

#### ③私の家族・役割充実プラン（一人一役運動）

この施策は家庭の中で児童・生徒一人ひとりの所属感・自己有用感を高めるために施策として掲げたものです。このプランを具現化するために、校長会・教頭会での指示を通して学校単位での家庭への啓発を行いました。特に、長期

休業中には各学校で発行するしおり等にも家庭の中での役割を持たせるようにとの働きかけが行われました。

## 【評価】

① 学校応援団として町内の全校設置3年目となり、コーディネーターの方々の連携が進み、自主的な情報交換等も行われてきました。コーディネーターの方々もPTA関係（経験者も含めて）からの選出が多く、小学校3校の児童が中学校1校へ進学する鳩山町ならではの連携が図れてきていると感じます。特に中学校でのコーディネーター3名（各小学校区より選出）という体制が有効に機能しています。課題としては、仕事を持たれている方々が多くの県の研修等に参加できない場合が多いことです。

② 少子高齢化、情報化、国際化など社会情勢が急激に変化する今日、住民のニーズも多様化しています。地方自治体の財政状況も長引く景気低迷の影響を受け、住民サービスの維持に苦慮しています。こうした状況に対処するためには、行政と住民などが連携協力し、相互に知恵を出し合い、協働で事務事業を進めていくことも必要です。また、過去の成果や課題を踏まえ、常に創意工夫した取組や改善が不可欠です。

今後の生涯学習事業については、町民や各種のグループ・サークルが連携し、自ら実行委員会などを組織して主体的に取り組む方法も望ましいと考えています。

毎年11月の「はとやま祭」に合わせ、社会教育委員の年間事業計画に位置づけられ、主体的に運営している「ふるさとの民話・童謡まつり」は、すでに生涯学習事業として町民に定着しており、評価できますが、民話の朗読者の確保が年々難しくなる状況を踏まえ、形骸化防止のため事業の名称の見直しも必要と思われれます。

親の学習講座事業に関しては、少子化の中で、親子のコミュニケーションの大切さや家庭教育の重要性などについて、町民に改めて考える機会を提供できたものと認識しております。

親学講座は、平成22年度に継続し、町内の各種団体や組織の代表者で構成された実行委員会で講座内容や運営の役割分担などについて協議しました。鳩山町親学講座実行委員会の主催により講演会を1回開催しました。

参加者の多くが子育てや家族について講師の話に感動するとともに、講演会に参加して満足した。より多くの人に講演会に参加してもらいたい。主催者に感謝したい。などの感想がありました。

各社会教育関係団体への支援については、関係法令等に基づき育成するとともに、活動状況を把握し、適時助言をしていくことも必要です。財政支援

については、引き続き関係団体の活動実績を踏まえ、町の行財政改革計画に基づいて取り組んでいく必要があります。

また、各社会教育施設や当該設備については、町民が安全に安心してご利用いただけるよう、日頃の適正な管理が大切であることは当然ですが、限られた財政(予算)の下では、課内で連絡調整し、修繕すべきところは優先順位を設けるなど計画的に進める必要があります。

中央公民館が主体となり実施している「だれでもチャレンジステージ」は、協働運営の原点に基づく出演者自からの広報活動等により、来場者が増加しました。また、「中央文化祭」、「鳩山陶芸展」につきましても、来場者の増加を得ることができました。

- ③ 家庭の中での活動であるために、その実施についての客観的な評価を行うことが難しく、実際にどれくらいの児童・生徒が一人一役を実施したのかは定かではありません。また、家庭によっては、当然のことであるということとで普段から取り組んでおりました。教育委員会として、重点施策の一つとしての位置づけを検討してまいります。

#### (4) 生涯学習（文化的活動）とスポーツの振興

##### ①多世代活動交流センター活用プラン

文化の振興と文化財保護として、次のような活用を図ることとしました。

ア 芸術文化を通じて町民の輪を広げるための文化活動の振興を図る

多世代活動交流センター2階の美術展示室において、「町所蔵絵画展～季節の移ろい～」を開催し、町所蔵の美術品展の公開を行いました。また、特別展示として町内絵画サークルを起用した「鳩山絵画展」や、写真家の森田和雄氏が撮影した鳩山の風景を特集した「鳩山ほのぼの写真館」を開催し、町内外から多くの来場者がありました。

展示会等	場所	開催期間	参加者数
鳩山絵画展Ⅰ～鳩画会編～	美術展示室	平成23年5月14日 ～平成23年5月31日	175名
鳩山ほのぼの写真館 ～森田和雄の世界「絆」～	美術展示室	平成23年6月20日 ～平成23年7月22日	180名
町所蔵絵画展	美術展示室	平成23年8月1日 ～平成24年3月30日	213名
鳩山絵画展Ⅱ～彩美会編～	美術展示室	平成23年10月8日 ～平成23年10月28日	178名

イ 地域の貴重な歴史・民俗・工芸などの各種文化財の保護と生涯学習等の機会に資するための文化財の活用にも努める

文化財の保護としては、埋蔵文化財関係で開発との調整を図るために各種開発に伴う埋蔵文化財試掘調査を10か所で実施しました。また埋蔵文化財発掘調査報告書を2冊刊行しました。ほかに出土品の再整理・再収納を行いました。また、地域史料関係として近世～近代の諸家文書の目録の作成も昨年度に引き続き行い、文書目録も刊行しました。

また、南比企窯跡群国指定史跡化の一環として泉井地区新沼窯跡の確認調査を実施し、26基もの窯跡が確認されました。3月17日には一般を対象とした現地見学会を開催し、多くの方の見学がありました。

文化財の活用としては、多世代活動交流センター2階出土品展示室において文化財展「鳩山窯跡群～25年を過ぎて振り返る大発掘～」を開催しました。

また、比企地区文化財振興協議会主催事業の巡回文化財展比企のタイムカプセル12「比企の獅子舞」鳩山会場を、町立図書館で開催しました。

展 示 会 等	場 所	開催期間	参加者数
鳩山窯跡群～25年を過ぎて振り返る大発掘～	出土品展示室	平成24年3月10日 ～平成24年3月30日	314名
比企歴史の丘巡回文化財展 「比企の獅子舞」	町立図書館	平成23年9月6日 ～平成23年9月11日	89名

### ②鳩山中学校ミュージアムの創造・活用プラン（郷土学習センター構想）

鳩山中学校の内装木質化と大規模改修に伴い設置した文化財展示室については、22年度3月に開催した出土品展示会の内容に改良を加え、展示内容の充実をはかりました。また、遮光設備の改善工事を行い、紫外線等の光線による展示物の劣化対策としました。

### ③スポーツ行事の活性化、施設の活用・充実プラン

「子どもから大人、高齢者まで」といった生涯スポーツの原点に基づき、スポーツ少年団や体育協会並びに体育指導委員・振興委員協議会との連携を図り、各種のスポーツ大会等を開催しました。

また、各競技部の主管による各種大会や講習会等も開催しております。

※主な大会と参加者数

大 会 名	参加者数
第25回グラウンドゴルフ大会（個人戦）	205名

第23回ウォーキング大会（小鹿野町・四阿屋山）	30名
第4回小学生グラウンドゴルフ大会	86名
第54回町民体育祭	2,326名
第29回鳩山駅伝大会	51チーム
第38回正月マラソン大会	339名
第20回鳩山親善サッカー大会	16チーム
第29回鳩山町スポーツ少年団野球大会	16チーム
第4回近隣交流ミニバスケットボール大会	6チーム

体育協会及びスポーツ少年団加盟団体に対し、育成費を支給しました。また、各競技部の自主的活動に対し、本部としての活動支援も行いました。

種別	育成費支給団体数	育成費支給額
体育協会	15	733,650円
スポーツ少年団	7	713,900円

各競技部における技術指導だけではなく、「もしもの時の救命知識と対処方法」を学ぶため、第4回普通救命講習会を開催しました。スポーツの技術指導だけでなく、幅広い知識と対応できる力が必要だと考え企画しました。

種別	参加人数
体育協会	11名
スポーツ少年団	6名

スポーツ少年団指導者認定員講習会及び指導者研修会に参加し、新たな指導者の人材確保と更なる技術指導等の習得を図りました。

種別	参加人数	参加内訳
認定員養成講習会	9名	野球2名、サッカー2名 バスケット1名
指導者講習会	3名	野球2名、柔道1名

鳩山町民体育館のアリーナにバスケットゴールを設置して以来、スポーツ少年団はもとより小・中学生、一般の方々の使用度が増えてまいりました。

#### ④一人1スポーツ実践プラン

「子どもから大人、高齢者まで」といった生涯スポーツの原点に基づき、「い

つでも、どこでも、だれでも」スポーツに楽しめるよう取り組んでまいりました。

スポーツには勝敗や記録を競う競技スポーツと楽しみとして行うスポーツや比較的簡単なルールで手軽に楽しむことを目的としたニュースポーツなどがあります。

また、ウォーキング等の健康づくりやレクリエーションとしての運動まで幅広く考えられます。

町では、町内のグラウンドゴルフを愛好家による鳩山町グラウンドゴルフ協会を設立し、町民の健康の増進と、明るい地域づくりに寄与するとともに、会員相互の親睦と生涯スポーツの振興を図ることを目的とし、親善グラウンドゴルフ大会も開催しました。

比企地区体育指導委員協議会主催による研修会に体育指導委員を派遣し、ニュースポーツの技術及びルール等の習得を図りました。

主催者	種目	参加人数
比企地区体育指導委員連絡協議会	ドッジビ	6名
比企地区体育指導委員連絡協議会女性部会	フリンゴ	3名

夏季厚生計画の促進を図るため、近隣のレクリエーション施設（プール）を利用する方へ利用補助を行い、町民の健康の維持管理と増進を図りました。

施設名	利用者数	補助金額
ニューサンピア埼玉おごせ	893名	357,200円
川越水上公園	298名	59,600円

## 【評価】

① 展示関係では美術・出土品展示会ともに好評のうちに開催できたものと考えています。今後は展示室のさらなる活用を図るために、美術・出土品展示室共に戦略的な企画を検討する必要があると同時に、各種イベントの実施も検討しなければならないと思われます。

文化財の保護・活用では、引き続き文化財全般にわたる保護・活用事業が達成されたものと評価できますが、当該分野は継続的な取り組みが必要な部門ですので、その水準維持が次年度以降も確保されることが求められます。

また、南比企窯跡群の国指定史跡化については、新沼窯跡発掘現場の見学会とそれ以降の見学者は延べ約1000人を数える等、一般の方々が高い関心を寄せている事も改めて確認されました。鳩山町固有の文化遺産である窯跡群を保護するだけでなく、町の活性化や、各種文化政策への寄与を通じて文

化力の向上が望めるものであり、事業の性格上長期戦で取り組まなければならないものと思われまます。

② 鳩山中学校ミュージアムについては、展示内容や設備の改良を行い、展示施設として充実させることができました。反面、利用については展示内容と設備改良に終始したこともあり、実際の利活用には至りませんでした。中学校職員からは文化財専門職員(学芸員)による展示解説が無いと活用しにくいとの意見もあり、文化財活用にかかる人材の確保を含め、組織の整備が大きな課題と考えられます。

③ スポーツイベントの3大事業のうち町民体育祭では、武蔵越生高等学校のチアリーダー部を招待し、お昼休みの時間帯を利用してチアリーダーングを披露していただきました。プログラムへの参加選手の増だけを考えるのではなく、みんなで力を合わせて懸命に取り組み、つくりあげることや、スポーツの素晴らしさを実感するという観点から判断すると、体育祭を盛り上げる目玉のプログラムとなりました。また、正月マラソン大会では、前年度を大幅に上回る参加をいただきました。参加者を募るにあたっては、受動的に仕事を進めるのではなく、早い段階から関係各位に参加依頼や周知等を行っていったことが、より多くの方に参加いただいた要因のひとつではないかと感じています。また、余興的側面からも見ても、大会を盛り上げることができたと思います。

各競技部による各種大会や講習会等については、創意・工夫のなかで企画していますが、人口の減少により参加者数が減少傾向にもあります。よって、初心者から経験者までが親しめる内容を検討していく必要があります。

今後も、生涯スポーツの基盤を強化していくには、体育協会だけでなく、スポーツ少年団、体育指導委員・体育振興委員との連携を図っていく必要があります。また、指導者の養成・育成は欠かすことができない課題であり、子供数の激減により団員の確保が重要であります。競技技能や知識を深めるための各種講習会等の開催を周知し、積極的な参加と人材の育成に努めていく必要があるものと考えます。

④ なお、スポーツに取り組んでいくうえで、活動拠点となる施設を確保・提供していくことも重要です。町の体育施設は老朽化が目立ってきており、早急な修繕を要する施設も出てきています。学校体育施設を含め、より効率的な運営と管理が今後の大きな課題となっています。

「町民一人1スポーツ」を目標に、「いつでも、どこでも、だれでも」身近にスポーツに親しみ、楽しめるようなスポーツ環境づくりに取り組んでい

ます。子どもを対象としたイベントから、成人や高齢者までの多世代に渡る各種事業を企画・実践できたことは評価できる点であると思います。

## 6 おわりに

教育委員会では、今までも教育行政の重点施策について、点検・評価を行い進めてまいりましたが、平成19年度から始まった学識経験者の知見を活用することにより、さらに目標に向けて努力することが必要であるとのご意見もいただきました。

教育委員会では、今後とも外部評価委員のご意見・ご提言を真摯に受け止め、さらに研さんに努め、より効果的な教育行政の推進に努力してまいります。

## 学識経験者からの意見並びに提言

### 1 点検評価報告書に係る意見

#### (1) 創造性と社会性を育む幼稚園・学校教育の推進

環境教育について鳩山町として今、太陽光発電を筆頭に再生利用エネルギー方面に進んで行こうと思っているのだと思いますが、子どもたちにどの様に伝達していくかといったら家庭と教育現場で実践的に教えていかないといけないと思います。

#### (2) 健やかな心と体（感動・優しさ・努力・体力）を育む健康教育の推進

図書館のレファレンスサービスを向上させてほしいと思います。

町立図書館と他地域の図書館の総合交流についての周知が足りないと思います。

図書館で勉強するために閉館時間延長の検討をしてほしいと思います。

いじめ問題について、いじめ発覚件数0とありますが、大津市の事件を他山の石とし、自分たちの問題と考え先生たちは先生たちの中で、話題にして欲しいし、先生と子どもたちの間でも話題になって、もしかしたら人知れず苦しんでいる子どもたちがいるかもしれないというスタンスで先生方に思っていたら子どもたちを助けてあげられると思います。

もうひとつ、いじめられている弱者に対する支援も必要ですが、いじめてしまう子どもも大事な町の子どものですから、いじめてしまう子どもの心理についても加害という被害にあわれないような子育てが町でできればよいと思います。

#### (3) 家庭・地域の教育力（愛情・安心・信頼・真心・躰）の向上

親学講座の講師の選択がとても良かったと思いました。

#### (4) 生涯学習（文化的活動）とスポーツの振興

南比企窯跡群の国指定史跡化への取り組みを大変喜ばしく思います。窯跡郡は、歴史学上の資料としてとても重要だと思います。